

# 令和4（2022）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

ブロック：中央ブロック

タカベ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 社会・生態系システム部、千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産センター大島事業所、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所、三重県水産研究所
----	---------	------	---

## (1) 調査の概要

・千葉、東京、神奈川、静岡、三重の各都県において、漁獲量等の収集を実施可能

## (2) データ収集状況

・2021年の関係都県における年漁獲量は暫定値で17.7トンである（千葉県：1.2トン、東京都：15.5トン、神奈川県：0.5トン、静岡県：0.2トン、三重県：0.3トン）  
・千葉県では2004年以降のタカベ水揚主要漁協の年別漁獲量を収集済み  
・東京都では1949年以降の年別漁獲量を収集済み  
・神奈川県では2015年以降の月別水揚量を収集済み  
・静岡県では2001年以降の伊豆東岸大型定置網7か統の年別水揚量を収集済み  
・三重県では2011年4月以降のタカベ水揚主要漁協の月別漁獲量、および同漁協の漁法別年別漁獲量を収集済み  
・直近5年間（2017～2021年）の漁獲量の合計値は17.7～60.0トンで推移しており、減少傾向である。ただし、漁獲量データの集計年は県によって異なるため注意が必要である

## (3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：房総半島から九州にかけての太平洋岸の外洋に面した岩礁地帯に生息する。伊豆諸島各島で実施された標識放流では、島間を移動し再捕された個体は報告されていない（有馬 1990）
- (2) 年齢・成長：耳石による年齢査定が行われ1歳で尾叉長125 mm、2歳で尾叉長170 mmほどに成長する。最高で7歳で尾叉長200 mmほどに達する（Watari et al. 2005）
- (3) 成熟・産卵：伊豆諸島では夏～秋にかけて成熟個体が見られる。生殖腺重量指数は9～11月が高く10月にピークを示す。雌雄とも尾叉長120 mm以上の個体で成熟が見られる（有馬 1984、亘 2006）
- (4) 被捕食関係：動物プランクトンで主にカイアシ類を捕食する（武藤 1970）

## (4) 備考

・特になし

引用文献

有馬多恵子 (1984) 伊豆諸島海域におけるタカベの資源生態について (概要), 昭和 59 年度沿岸重要資源委託調査成果報告書, 49-59.

有馬多恵子 (1990) タカベの資源調査から 寄網漁況と魚体組成および移動について, 昭和 62,63 年度沿岸重要資源委託調査成果報告書, 50-66.

武藤修一 (1970) 伊豆諸島におけるタカベの漁業生物学的研究, 東京水産大学修士学位論文

Watari S. Yonbezawa J., Yamada S., Tanaka E. and Kitakado T. (2005) Age and growth of yellowstriped butterfish, *Labracoglossa argentiventris*, around Izu Oshima Island, Fisheries Science, **71**, 86-94.

亘 真吾 (2006) 伊豆諸島北部海域におけるタカベの資源学的研究, 水研報, **18**, 167-242.